

WILEY



ケーススタディー

**Wiley's Usage-Based Collection
Management Model (UBCM)**
利用型コレクション管理モデル



背景

カーネギーメロン大学 (Carnegie Mellon University)、アイオワ州立大学 (Iowa State University)、ノースイースタン大学 (Northeastern University) の図書館では最近、根拠に基づいたエビデンスベースでの購入 (EBA) プログラム、特にWileyのUBCM (利用ベースのコレクション管理) モデルを利用して、コレクションの最適化と予算管理を行い、日々進化するキャンパスやコミュニティからの多様なニーズに応じています。ここでご紹介するケーススタディーは、UBCMモデルの電子書籍のコレクションを取り入れることの利点と戦略について取り上げます。

カーネギーメロン大学 (Carnegie Mellon University) は、科学、技術、ビジネスから公共政策、人文科学、芸術まで、さまざまな分野のプログラムがある研究大学です。カーネギーメロン大学図書館システムは、多様な学術コミュニティの学術的要件や研究要件を満たすのに役立っています。

アイオワ州立大学 (Iowa State University) は、多様な学生にサービスを提供し、科学、技術、人間の創造性における理想の推進に重点を置く公立の研究大学です。アイオワ州立大学図書館は、幅広い分野にわたる教育、学習、研究に対する支援の中心的な役割を果たしています。

ノースイースタン大学 (Northeastern University) は、複数のキャンパスがあり、体験学習に重点を置いているグローバルな研究大学です。ノースイースタン大学図書館では、さまざまな学術分野の多様な学生たちにサービスを提供しており、特にグローバルキャンパスでの研究支援に力を入れています。

課題

学術図書館が紙の本からデジタルリソースへと移行するにつれて、予算の管理、リソースへのアクセス性、およびサブジェクト分野の幅広さが課題となってきました。電子書籍の利用は、ここ数年で増加しています。特にコロナ禍では、予算面での制約や、印刷形式と比較して、電子書籍のコストの増加、図書館の管理責任の増加に関連した課題が見られました。それと同時に図書館は、さまざまな分野の教員や学生からの多様なニーズに確実に応えるコレクションを揃える必要がありました。

カーネギーメロン大学では、既に自分の職責に、日々追われていた司書（特にリエゾン司書）への、コレクションに関する購入、購読の意思決定にかかる負担の軽減や、新しいカリキュラムに合わせた、さまざまな分野・領域のコレクションの購入などが課題となってしまいました。

アイオワ州立大学では、図書館がデジタルのみのリソースへ移行を始めたことから、コロナ禍の際に課題が浮上しました。これは図書館の予算に大きな影響を及ぼしました。電子書籍のコストの上昇とデジタルリソースが人気のため、図書館は、他の重要なリソースを犠牲にすることなく予算を管理する方法を見つけなければなりませんでした。

ノースイースタン大学では、図書館サービスを複数のキャンパスに拡大するとともに、多様なデジタルコレクションの必要性が生じ、同様の課題に直面しました。大学は、財政面での責任を維持しながら、幅広いサブジェクト領域を入手する方法を必要としていました。

解決策

これら三大学は、Wileyの利用型コレクション管理モデル（UBCM）を戦略的な解決策として採用しました。そして各大学は、Wileyの担当者と協力し、予算の制約とデジタルリソースへの移行に取り組み、さらなる根拠に基づいたエビデンスベースの購入（EBA）戦略への移行の一環として、Wiley UBCMプログラムを利用しました。各大学では、Wiley UBCMを導入した後、電子書籍の検索の向上、幅広いサブジェクト領域での利用、第三者であるエージェントとの相互運用性の向上について確認しました。UBCMはお客様へ、さまざまなコレクションタイプと分野別コレクションの柔軟なオプションを提供し、幅広いタイトルにアクセスできる前払いシステムとなります。これにより各図書館のお客様は、契約終了時点での利用状況を評価し、学術コミュニティにとって特に関連性の高いタイトルを購入することができます。このアプローチにより、教員や学生のニーズを予測する負担がなくなるとともに、利用があったタイトルのみに対して支払いをすることで、図書館は、確実に予算内で運営することができます。

カーネギーメロン大学は、第三者のエージェントレポートを使用し、電子リソースを現地の図書館ディスカバリサービスと統合することで、タイトルを管理しやすくなることを、主な利点として挙げました。電子リソースチームが小規模であることから、こうしたツールの自動化と効率性が重要であり、特に自動的に蔵書を追跡することで、リソースの管理と発見を容易にします。また、WileyのUBCMプログラムを介して、電子書籍の効果的なコンテンツ発見方法と利用コストの削減とを結びつけました。この発見プロセスは、電子書籍リソースの利用率を高めるための鍵となります。

アイオワ州立大学は、発見性についても同様の成功を収めていること、そして新しい電子書籍は、従来の冊子体から得られる知識とは違い、図書館の統合された現地のディスカバリーシステムを通じて、すぐに利用することが可能である点を付け加えました。また、ディスカバリーシステムのメタデータとの統合により、電子書籍の利用が増加しています。

ノースイースタン大学がグローバルキャンパスの拡大について言及しているとおおり、電子書籍のコレクションとサブジェクト領域の幅広さは、複数のキャンパスや広域な研究を発見するための戦略に役立ちました。またWileyのUBCMモデルの利用統計レポートから、ほぼ全ての分野でタイトルの利用率が全面的に高いことを言及しました。これは、毎年予算の増額を検討している大学側にとっては、非常に価値のある事実でした。

UBCMの成果

UBCMプログラムを採用した翌年、カーネギーメロン大学、アイオワ州立大学、ノースイースタン大学では、電子書籍の利用率が平均78%以上*増加しました。さらなるエビデンスベース(EBA)の購入戦略を採用する動きが見られるのは、学術図書館が、データ主導型で柔軟性のあるモデルに向かう傾向がより一層高まっていることを反映しています。これらの機関は、利用状況レポートと利用経費データを分析し、情報に基づいた意思決定を行い、予算を管理し、図書館利用者とプログラムの需要に合ったコレクションを揃えていると確認することができます。このように、コレクション料金を前払いし、また、タイトルの発見性を高め、各機関ではアクセス期間の終了時に利用状況レポートを使用して、よりシンプルにデータに基づいたタイトルを選定、選択することができます。また、選択したタイトルに恒久的にアクセスできるようになります。そしてUBCMは、従来の購読モデルをしのぐものとなります。データ主導型のレポートを活用し、図書館利用者のために、クラス最高のコレクションを開発します。2万4千冊以上の電子書籍が利用可能であるほか、新しいタイトルが毎年700冊以上も追加されているため、コレクション内のテーマの幅広さは、研究者や各機関のニーズに対応し続けることができます。

- 2022年にUBCMを採用した後、アイオワ州立大学では、**2023年の電子書籍の利用率が21%以上も増加しました***。
- 2023年にUBCMを採用した後、ノースイースタン大学では、**2024年の電子書籍の利用率が165%以上増加しました***。
- 2016年にUBCMを採用した後、カーネギーメロン大学では、**2017年に電子書籍の利用率が50%以上増加しました***。
- 2023年の各機関のアクセス期間の終了時に、**平均135タイトルの電子書籍が選択されました**。
- 2024年の各機関のアクセス期間の終了時に、**平均212タイトルの電子書籍が選択されました***。

いずれのケースでも図書館は、予算、デジタルアクセス、発見のしやすさ、利用者のための多様なポートフォリオの維持に関連する特定の課題に直面しました。しかし、WileyのUBCMプログラムを通じて、それぞれの図書館は財政面での責任を保ちながら、学術コミュニティのニーズを満たすことができました。

**Institutional COUNTER Reportのデータ*

数字でみるUBCM

UBCMフルコレクションは、次のように様々な分野を網羅しています:



Agriculture



Business



Economics



Chemistry



Engineering



Psychology



Life Sciences



Earth & Environmental Sciences



Math & Statistics



Medicine & Nursing



Physical Science



Veterinary Science



Social & Behavioral Science

UBCMのフルコレクションは、**2万4千冊以上**の書籍が含まれ、**毎年700冊以上**の新しいタイトルが追加されています。

Wileyのお客様独自のカスタム利用状況レポートには、各機関がUBCMの利用状況を確認するための**8つの情報フィールド**が含まれています。

9千以上の機関に所属する

53,000人

以上の論文著者と編集者

11,000冊

以上のタイトルがトップ10%に含まれる研究大学から集められている

PROSE、COICE、RUSA、Doody'sが認めた

900冊

以上の受賞電子書籍

47冊

の電子書籍にノーベル賞受賞者が執筆に参加

52人

の論文著者が、農業、化学、医学、物理学でウルフ賞を受賞

37人

の論文著者が基礎臨床科学でラスカー賞を受賞

お客様の声



Kimberly Dolan

カーネギーメロン大学、
リソースディスカバリーサー
ビス部門責任者 (Head of
Resource and Discovery Services)

“ 私たちがUBCMの更新を続けている主な理由は、意思決定を行う際に、データがとて頼りになるからです。EBAは図書館司書の負担を軽減してくれます。教員や学生が必要とするものを自分で判断しなくてもよくなり、他の優先事項に集中できるようになります。このプログラムは、膨大なリソースのコレクションを公開しているので、データを利用して必要なものを購入することができます。 ”

“ UBCM は、私たちの大きなEBAの一つです...他のEBAの中には、よりテーマに特化したものもあります。管理が簡単ですし、年度末にタイトルを選ぶのも、簡単です。また、タイトルの利用頻度が高いので、ユーザーにとっても効果的です。 ”



Robin N Sinn

アイオワ州立大学、コレク
ション&オープストラテジー
担当ディレクター (Director,
Collections & Open Strategies)

“ (UBCM) プログラムにある全ての書籍について、私が購入する予定のないものも含めて、利用ごとにかかるコストを見ると...EBA プログラムに費やす予算で、どれだけ多くの学生や教員の需要を満たしているかが明確にわかります。契約終了時に恒久的なアクセス権を購入するだけでなく、利用可能な書籍プールに引き続きアクセスすることができるので、非常に便利です。 ”



Amy Lewontin

ノースイースタン大学、
コレクション開発担当司書
(Collection Development Librarian)

“ 私たちは大学に予算を返さなければならないので、UBCM は私たちにとって保険のようなものになってくれました。まさに救世主でした。私たちは他の出版社とのパッケージ契約を結んでいますが、Wileyとの契約は、初めての大規模な実験となりました。 ”

“ 私たちはすでに電子書籍を導入してはいましたが、他にもキャンパスがオープンし、数多くの異なる分野で、数多くの異なる資料を提供できるようにする戦略を立てていました...予算がもらえたら、UBCMをぜひ導入したいと思っていました。 ”

“ Wiley (UBCM) のコレクションの幅広さについては、利用状況を見るまで知りませんでした。毎年予算を増やしてもらうように訴えなければならないので、これは私たちにとって良いニュースです。このコレクションには、本当に感謝しています。 ”